

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直している。

先行きについては改善の動きがみられる。

〔景況感DI〕

- ・前期比で2.8ポイント減少し▲40.8となり、3期ぶりに悪化した。
- ・業種別では、製造業、非製造業ともに3期ぶりに悪化した。

〔景況感の先行きDI〕

- ・前期比で0.3ポイント増加し▲17.4となった。2期ぶりに改善した。

〔売上げDI、資金繰りDI及び採算DI〕

- ・売上げDIは▲22.3となり、2期ぶりに悪化した。
- ・資金繰りDIは▲19.5となり、2期ぶりに悪化した。
- ・採算DIは▲26.6となり、4期ぶりに悪化した。

〔設備投資の実施率〕

- ・前期比で2.3%減少し21.6%となり、3期ぶりに減少した。

〔来期の見通し〕

- ・売上げDI及び採算DI、資金繰りDIは当期DIより改善する見通しである。
- ・設備投資の実施率については当期実施率から横ばいに推移する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和6年10～12月期、「当期」：令和7年1～3月期、「来期(先行き)」：令和7年4～6月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

(1) 景況感

自社業界の景況感DIは▲40.8（前期比▲2.8）となり、3期ぶりに悪化した。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに悪化した。

〔景況感DIの推移〕

	当 期 (R7.1-3)	前 期 (R6.10-12)	前年同期 (R6.1-3)
全 体	▲40.8	▲38.0	▲41.0
製 造 業	▲46.9	▲43.9	▲46.9
非製造業	▲36.1	▲33.5	▲36.4

(2) 来期の見通し

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.7%（前期比+0.5%）、

「悪い方向に向かう」とみる企業は25.1%（前期比+0.2%）だった。

先行きDIは▲17.4（前期比+0.3）と、2期ぶりに改善した。

〔来期の見通し〕

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R7.4-6)
全 体	7.7%	25.1%	▲17.4
製 造 業	7.5%	26.3%	▲18.8
非製造業	7.9%	24.3%	▲16.4

2 売上げについて

売上げD Iは▲22.3（前期比▲14.2）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業は4期ぶりに悪化し、非製造業は2期ぶりに悪化した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〔売上げD Iの推移〕

	当 期 (R7.1-3)	前 期 (R6.10-12)	前年同期 (R6.1-3)	来期見通し (R7.4-6)
全 体	▲22.3	▲8.1	▲25.8	▲12.7
製 造 業	▲24.5	▲5.7	▲28.1	▲12.9
非製造業	▲20.6	▲10.0	▲24.0	▲12.5

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲19.5（前期比▲2.3）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〔資金繰りD Iの推移〕

	当 期 (R7.1-3)	前 期 (R6.10-12)	前年同期 (R6.1-3)	来期見通し (R7.4-6)
全 体	▲19.5	▲17.2	▲23.2	▲17.6
製 造 業	▲21.9	▲17.6	▲26.0	▲19.3
非製造業	▲17.6	▲16.9	▲21.0	▲16.2

4 採算について

採算D Iは▲26.6（前期比▲3.2）となり、4期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業は4期ぶりに悪化し、非製造業は2期連続悪化した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〔採算D Iの推移〕

	当 期 (R7.1-3)	前 期 (R6.10-12)	前年同期 (R6.1-3)	来期見通し (R7.4-6)
全 体	▲26.6	▲23.3	▲28.5	▲19.8
製 造 業	▲26.9	▲22.3	▲30.5	▲19.5
非製造業	▲26.3	▲24.1	▲27.1	▲20.0

5 設備投資について

設備投資の実施率は21.6%（前期比▲2.3%）となり、3期ぶりに減少した。

来期は横ばいに推移する見通し。

業種別にみると、製造業は2期連続減少し、非製造業は3期ぶりに減少した。

来期については、製造業は当期の実施率より増加し、非製造業は減少する見通しである。

〔設備投資の実施率〕

	当 期 (R7.1-3)	前 期 (R6.10-12)	前年同期 (R6.1-3)	来期見通し (R7.4-6)
全 体	21.6%	23.9%	20.3%	21.6%
製 造 業	24.1%	26.4%	23.2%	26.0%
非製造業	19.7%	22.0%	18.1%	18.3%

6 ヒアリング調査の概況

※ 詳細はP 19を御覧ください。

（１）売上げ・採算について

業種	コメント
輸送用機械器具	高単価の新規受注の増加と製造現場の生産性向上の効果で採算は良くなった。
電気機械器具	売上高は前年同期比でほとんど変わらず低調だが、引き合いは増えてきているため、今後は徐々に増えていくとみている。
銑鉄铸件	賃上げを続ける中でも労務費を含めた価格転嫁ができており、採算は変わらない。
印刷業	資材価格上昇分の50%程度しか価格転嫁できておらず、採算は悪化している。
スーパー	値上げにより客単価が上がったが客数が減り、売上高はほとんど変わらない。
情報サービス業	不採算部門を整理したことで、採算は良くなった。
建設業	建築コストはおおむね販売価格に転嫁できており、採算を維持している。

（２）現在の景況感について

業種	コメント
一般機械器具	大手ゼネコンからの受注や新たな調査機器の開発依頼が増えており、好況である。
輸送用機会器具	回復を期待していたが、依然として不況である。
スーパー	既存店の売上げが増え、新規出店も計画どおりに進んでおり、好況である。
商店街	原材料や光熱費高騰の影響が大きく、不況である。
その他小売卸売	不況である。見積りを出しても受注に至らないケースが最近特に増えている。
旅行業	景況感は普通である。需要は旺盛だが、人手不足で受注を増やせない状況が続く。
運輸業	業界全体として荷役が増えているという印象はなく、景況感は普通である。

（３）今後の見通しについて

業種	コメント
電気機械器具	米国の関税政策の影響を受ける可能性があり、先行きは不透明である。
金属製品	米国による関税政策やそれに伴う米中に貿易戦争等への懸念から、不透明感が強い。
プラスチック製品	見通しは不透明であり、年度計画の下方修正を行う予定である。
食料品製造	生産性向上が図れており、今後徐々に良い方向に向かっていくとみている。
工業塗装	先行きは不透明である。米国の関税政策による自動車業界への影響が懸念される。
百貨店	客数、売上げともに伸長しており、今後も良い方向に向かっていくとみている。
宿泊業	週末を中心に予約は順調に埋まっており、良い方向に向かっていくとみている。